

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報について

平成23年度病害虫発生予察注意報第2号を発表したので送付します。

平成23年度病害虫発生予察注意報第2号

1 作物名 さとうきび

2 害虫名 メイチュウ類(イネヨトウおよびカンシャシクイハマキ)

3 発生地域 沖縄県全域

4 注意報発令の根拠

- (1) 沖縄本島中南部地域における12月中旬～下旬の調査の結果、夏植圃場での芯枯茎率は13.8%であった。
- (2) 宮古島における12月中旬～下旬の巡回調査の結果、夏植圃場における芯枯茎率は7.5%(前年0.7%、例年5.3%)と例年よりやや高かった(図1)。一部圃場では激しい被害が発生し、イネヨトウの食害がみられた(図3、4)。
- (3) 石垣島における12月中旬の巡回調査の結果、夏植圃場における芯枯茎率は4.2%(前年2.7%、平年2.2%)と平年よりやや高かった(図2)。
- (4) 各地域の病害虫防除員から、メイチュウ類による被害が報告されている。

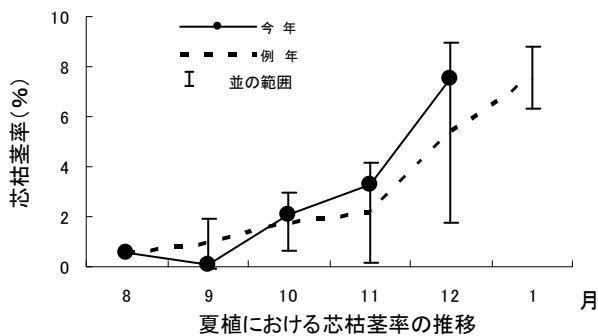


図1 宮古島における芯枯茎の発生推移

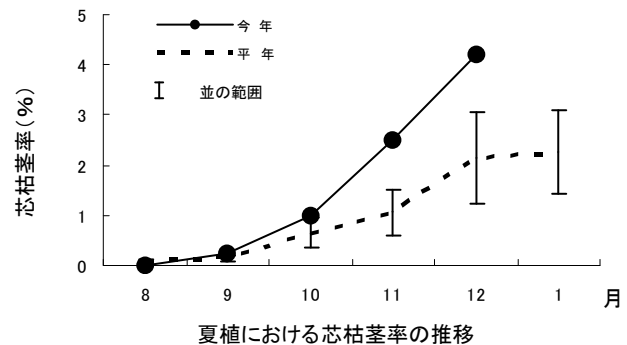


図2 石垣島における芯枯茎の発生推移

5 発生生態および被害

(1) イネヨトウ(図5)

- 沖縄では年5～7世代を重ね、周年発生する。
- 卵は葉鞘の裏側に卵塊で産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は400～700卵に達する。
- 初期被害は圃場周縁部で見られ、圃場内でスポット状や畝に沿って被害が拡大する。被害が集中的に起こるため、生育初期に加害されると坪枯れを起こすこともある。
- 被害圃場およびイネ科雑草地が発生源となり、新植圃場に侵入する。

(2) カンシャシンクイハマキ(図6)

- a 沖縄では年6～7世代を重ね、周年発生する。
- b 卵は葉や茎などに1～数卵ずつ産み付けられ、1雌当たりの生涯産卵数は200～500卵に達する。
- c ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し生長点を加害し芯枯れを起こす。
- d 被害は圃場に散在的に発生する。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場および周辺の除草を徹底する。
- (2) 発芽揃期から有効分けつ期の芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- (3) 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液が浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- (4) 薬剤防除後、2～3週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。
- (5) 培土時には土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- (6) 被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。



図3 宮古島市における被害圃場



図4 芯枯茎



図5 イネヨトウ幼虫



図6 カンシャシンクイハマキ幼虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : 098-886-3880、098-886-0227

ホームページアドレス : <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>